

硯	文科二部一年	蚊	泉	靖子	五六
(短歌)					
伊香保にて		柴		舟	五七
をりにふれて		吉永	ふみ		五八
熊祭りを見て		河崎	なつ		五八
題いろく					五八
偶感					
自己に對する解決	文科三年	江藤		馨	六七
報					
第廿五回文科學術談話會					七四
第四回會計報告					七四
交詢					
母校日より		堀尾	ごめ		七五
熊本より		八尋	かめ		七八
福岡より		井淵		英	七九
岡山より					
稟告					

文科學術談話會々誌

第五號



●潜在意識 (Sub-consciousness)

文科四年 源

意識といふのは一言で説明すれば我等の智情意全体の働であります。吾々が熱心に勉強してゐるときそれがその瞬間の意識作用であります。病める友達の身の上について切りに同情をよせてゐるそれもその時の意識作用であります。凡てその時の心の働全体がその時の意識作用であります。然らば潜在意識とは何をいふか、元來吾々の精神といふは吾々が自覺する事のできる範圍換言すれば普通心といふそれ丈の範圍と思つてゐました然るに近來比較的新しい心理學 The New Psychoology 於ては吾々の精神作用といふものは吾々の意識に上る範圍丈のものではなく吾等自身の知らぬ奥深いところにも潜んでゐて知らず識らず大なる働をしてゐる。吾々は普通心といふものよ